

2016  
1  
Vol. 109

# 筑豊小児科医会会報

発行：飯塚病院小児科



## CONTENTS

§ 筑豊小児科医会のご案内	1
§ 小児科医会報告	2
§ 地域連携ささえあい小児診療	3
§ 飯塚病院月間診療のまとめ	3
§ 大新年会開催のお知らせ	4

### § 筑豊小児科医会のご案内

#### ■第 272 回

●日 時：2016年1月21日（木） 19:00～

●場 所：のがみプレジデントホテル

➡一般講演

「児童虐待防止拠点病院としての振り返りと今後の展望」

飯塚病院 小児科 岩元 二郎

➡特別講演

「重症喘息の適切な評価と治療」

福岡市立こども病院 アレルギー・呼吸器科 手塚 純一郎 先生

講演会終了後情報交換会あり

#### ■第 273 回

●日 時：2016年2月25日（木） 19:00～

●場 所：のがみプレジデントホテル

福岡大学 安元教授によるてんかん関連の講演を予定しています。

〈その他講演会のお知らせ〉

#### ■平成 27 年度 第 5 回筑豊地域小児在宅医療研修会（小児在宅医療の実技に関する講義と演習）

●日 時：2016年1月14日（木） 18:30～20:30

●場 所：飯塚病院 北棟 4 階 多目的ホール

➡講義編 18:30～19:00

講師：飯塚病院 小児科 診療部長 大矢 崇志

- 小児患者の特徴
- 呼吸器装着時の観察ポイント
- 在宅移行時の流れ
- 筋緊張児への対応

➡実技編 19:10～20:10

講師：飯塚病院 医師・看護師・臨床工学技士

- 第1ブース：呼吸器の見方（基本設定、基礎知識）
- 第2ブース：BVM（バッグバブルマスク）使用実技演習
- 第3ブース：吸引シミュレーション及び吸引物品の管理方法

## 小児科医会報告（第271回と第41回筑豊周産期懇話会の合同開催）

今回は、一般演題の一つで当院小児科の酒井さやか医師がまとめて発表した「当院における特定妊婦とその出生児の転帰」の内容を紹介したいと思います。本演題は、周産期領域における特定妊婦の概要を幅広く啓発するため、第13回小児救急医療カンファレンス（平成27年11月27日開催）と第487回日本小児科学会福岡地方会（平成27年12月12日）でも発表させていただきました。

### ○「特定妊婦」とは？

平成21年に改正施行された児童福祉法で初めて規定された「出産後の養育について出産前に支援を行うことが特に必要な妊婦」を特定妊婦と定義した。自治体の要保護児童対策地域協議会の支援対象者にも要保護児童、要支援児童とともに特定妊婦が位置づけられている。増え続けている児童虐待の予防として、特定妊婦への妊娠中からの積極的支援や地域連携への重要性が注目されている。

### ○具体的な「特定妊婦」とは？

厚生労働省の養育支援訪問事業ガイドラインによると、若年妊婦、経済的困窮を有する妊婦、妊娠葛藤のある妊婦、母子健康手帳を有していなかったり、妊娠後期に妊娠届を出す妊婦、妊婦健康診査を受けていない未受診妊婦、多胎や母体精神疾患を有していたり、心身の不調を有する妊婦のことを指す。

### ○飯塚病院での調査

2014年4月1日から2015年3月31日までの1年間の間に、飯塚病院で分娩を行った妊婦から、上記ガイドラインにある特定妊婦の要件を一つでも有する妊婦とその出生児を対象とした。調査研究としては、2015年9月30日までに、出生時および出生後の診療情報を診療録より後方視的に検討した。

### ○結果：母体の状況

調査期間中の1年間に当院では599件の出産（月平均約50例）があり、うち特定妊婦は90名（15%）であった。平均年齢は27.9歳であった。経済的困窮40名、心身の不調19名、妊娠葛藤の吐露17名、若年妊娠が16名、多胎16名、妊婦健診の未受診（妊娠後期に妊娠届け）9名であった（該当人数には重複あり）。

母子家庭は36名、飲酒7名、喫煙25名、被虐待経験7名、生活保護受給28名、医療ソーシャルワーカー介入あり61名であった（該当人数には重複あり）。

### ○結果：出生児の状況

平均在胎週数は37週4日、平均出生体重は2,641g、観察期間は最小で6ヶ月、最長で1年半であった。NICU入院48例、院内の小児虐待防止委員会介入例10例、児童相談所介入10例、乳児院入所4例、不審死1例であった（該当人数には重複あり）。

このうち虐待および不適切な養育が疑われた児は16症例であったが、母体の平均年齢は24.8歳、ネグレクトは10例であった。

### ○まとめと今後の展望

当院における特定妊婦は、経済的困窮、母体の心身の不調、妊娠葛藤を抱えているものが多かった。養育上も多くの問題を抱えており、積極的な養育支援と地域連携が必要と思われた。今回の調査では、

特定妊婦群に対する対照群がないため生活程度や困窮等の比較ができないこと、他の地域と比較して特定妊婦の状況がどうなのかなどが課題として残った。特定妊婦の評価に関しては、エジンバラ産後うつスケールや出生児の健診の受診状況、予防接種の接種状況など他の指標を導入しての更なる検討が必要と考えられた。

## § 地域連携ささえあい小児診療

### 地域連携ささえあい小児診療スケジュール ■2016年1月・2月

1月			2月		
1月5日	火	荒木小児科医院 荒木久昭	2月2日	火	宮田病院 甲斐文士
1月6日	水	飯塚市立病院 牟田広実	2月3日	水	飯塚市立病院 穂吉秀隆
1月7日	木	飯塚病院 小児科 岩元二郎	2月4日	木	こどもクリニックもりた 森田 潤
1月12日	火	栗原小児科内科クリニック 栗原 潔	2月9日	火	飯塚病院 小児科 岩元二郎
1月13日	水	飯塚市立病院 穂吉秀隆	2月10日	水	飯塚市立病院 牟田広実
1月19日	火	ひじい小児科・アレルギー科 クリニック 肘井孝之	2月16日	火	ささきこどもクリニック 佐々木宏和
1月21日	木	たなかのぶお小児科医院 田中信夫	2月17日	水	川崎町立病院 中村由季
1月26日	火	あざかみこどもクリニック 阿座上才紀	2月18日	木	やまのファミリークリニック 山野秀文
1月27日	水	川崎町立病院 中村由季	2月23日	火	飯塚病院 小児科 岩元二郎
1月28日	木	飯塚病院 小児科 岩元二郎	2月24日	水	飯塚市立病院 穂吉秀隆

2016年1月8日現在

## § 飯塚病院月間診療のまとめ 《2015年11月》

- 入院患者数 132人 ●外来患者数 1,842人 ●救命救急センター受診者数 1,009人
- 新生児センター入院患者数 17人 ●分娩件数 54件
- 主要疾患数（退院患者数；107人）

肺炎・気管支炎	18	低出生体重児	14	痙攣及びてんかん	12
喘息	8	急性上気道感染症	7	急性胃腸炎	6
高ビリルビン血症及び黄疸	3	腸重積・腸閉塞	2	新生児呼吸障害・心血管障害	1
その他	36				

- 紹介件数 110件 (件)

①	雪竹医院	6
②	飯塚宮嶋医院	5
	すどうクリニック	5
④	あざかみこどもクリニック	4
	佐野医院	4
	田川地区急患センター	4
	直鞍急患センター	4
	平野医院	4

## 大新年会開催のお知らせ

飯塚病院では、小児科および小児外科合同の大新年会を毎年2月上旬に開催しています。今年は2月5日（金）の午後7時より、パドドゥ・ル・コトブキで開催します。筑豊小児科医会の先生方の多数のご参加をお待ちしています（案内状を送付させていただいています）。

